

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1935 号

Significance of Serum Polyunsaturated Fatty Acid Level Imbalance in Patients with Acute Venous Thromboembolism

(静脈血栓症患者における血中多価不飽和脂肪酸濃度不均衡の重要性)

比企 優 (ひき まさる)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、急性静脈血栓症患者と健常人における血清多価不飽和脂肪酸濃度をはじめて比較検討した有意な論文である。本論文では、急性静脈血栓症患者は健常人と比較し血清アラキドン酸濃度が有意に高値であり、血清エイコサペンタエン酸濃度は有意に低値であることを明らかにした。また、エイコサペンタエン酸/アラキドン酸比は有意に低値であり、エイコサペンタエン酸濃度やアラキドン酸濃度は急性静脈血栓症の発症における独立した危険因子であった。さらには、若年者の急性静脈血栓症においてエイコサペンタエン酸/アラキドン酸比は健常者と比較し有意に低値であることを明らかにした。

エイコサペンタエン酸は抗凝固作用や抗炎症作用を有しており、内皮機能を改善することが知られている。近年動物モデルでは静脈血栓症予防においてエイコサペンタエン酸の有益な効果が報告されている。しかしながら臨床研究においては、極めて少数例、対照群を置いていない、脂肪酸測定が不十分である、といった報告が散在するのみで議論の余地があるところであった。また本邦では、静脈血栓症発症率が、10年で2倍以上に増加している。これまでに魚食離れによると思われる若年者のエイコサペンタエン酸/アラキドン酸比低下が報告されており、静脈血栓症発症との関連が危惧されている。

本論文は発症が致死的となりうる急性静脈血栓症の予防にエイコサペンタエン酸が関与する可能性を明らかにした初めての研究であり、その傾向は若年者において顕著であることも示している。エイコサペンタエン酸が、今後も増加が予測される静脈血栓症の治療対象となりうることを示した臨床的に意義のある貴重な論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。